

経営比較分析表（令和2年度決算）

熊本県 大津町

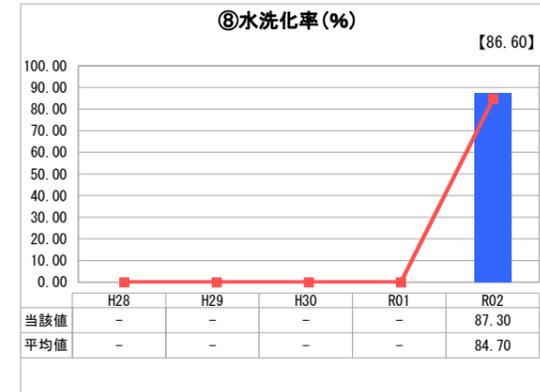
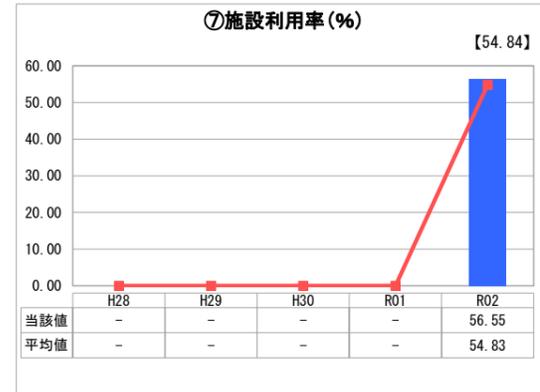
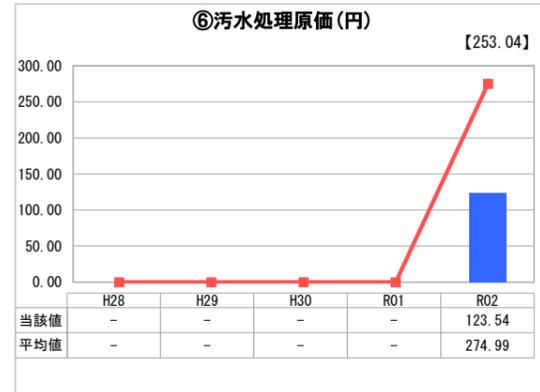
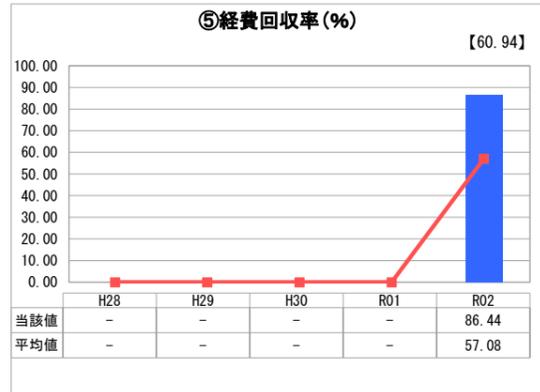
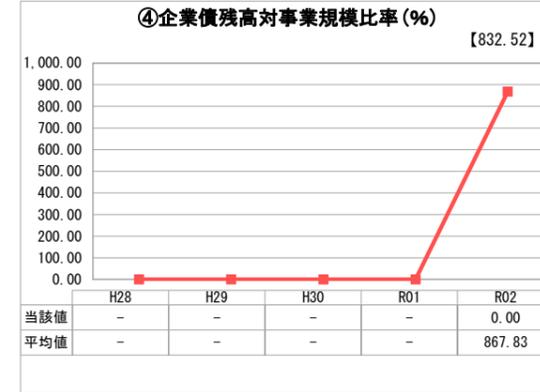
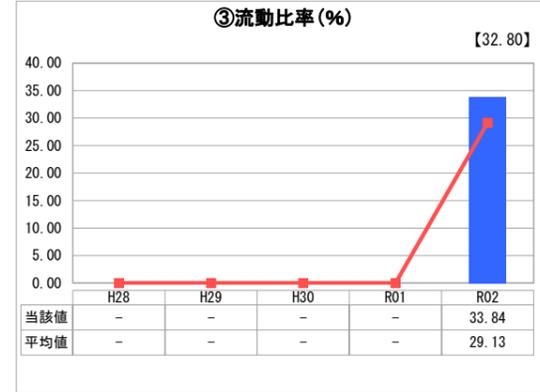
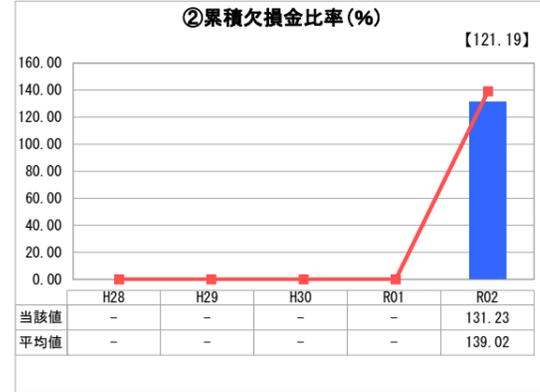
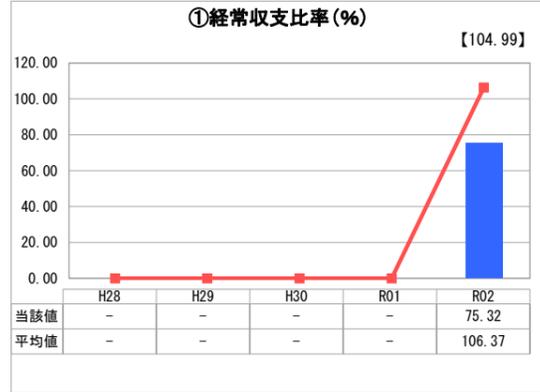
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	57.91	8.00	100.00	2,200

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
35,394	99.10	357.15
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
2,834	2.39	1,185.77

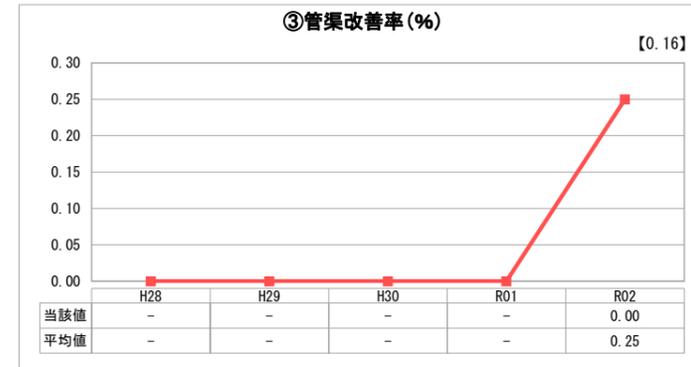
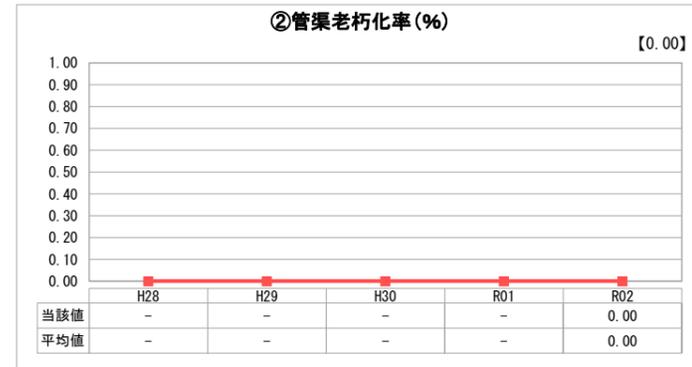
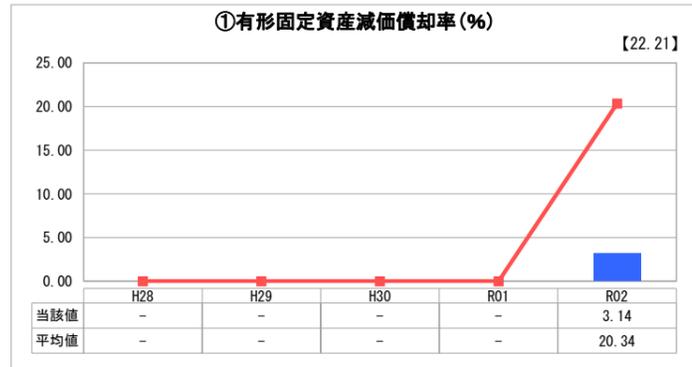
グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 収益的収支比率、⑤ 経費回収率
 収益的収支比率は平均値より低く赤字となっている。経費回収率は、平均値より高いものの、収入の半分以上を一般会計からの補助金で賄っている。令和2年度に策定した経営戦略により、適正な使用料金の設定を令和3年度以降継続して検討し、率の向上に努める。

⑦ 施設利用率
 平均値より高いものの、今後、人口減少傾向にあり、大きな転機を迎えている。

⑧ 水洗化率
 平均値並みであるが、近年はあまり伸びていない現状。引き続き戸別訪問等により水洗化の促進を図っていかねばならない。

2. 老朽化の状況について

平成17年度から供用開始し、管渠については、概ね良好である。三つの処理場については、修繕等が増加しており、最適整備構想による更新等を行う。維持管理に対する財源の確保が課題である。

全体総括

公営企業会計移行に伴い、今後、処理場の統合や公共下水道への編入、包括的民間委託の導入の検討及び使用料の見直しに取り組む予定としている。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。